



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 早川清志 題字 島崎洋路

# 『アカマツ林の苦難』

## 通年コース第七・八回開催報告 「間伐」

今回間伐に使わせてもらった伊那市富島の山林。尾根から田んぼ脇の林道近くまで、天然のアカマツが生えています。アカマツは長野県を代表する樹種で、秋、尾根に沿いで収穫できるマツタケは現在長野県が日本一の生産量を誇っています。アカマツは陽樹のため、コナラやミズナラなど他の多くの広葉

樹と混交し、ホンシメジ、アミタケやイグチ類、コウタケやクロカワなど、樹木と共生している菌根性の、とてもおいしいきのこも幸運に恵まれば見つけることが出来ます。そしてこの混交林は多くの昆虫や動物たちの住処となる、生物多様性を支える森林であると同時に、保水力が高

く、災害にも強い水源涵養や土砂流出防備の役割も担っています。当然長野県の里山の景観を代表する景観・風致林でもあります。今、伊那市周辺のこのアカマツ林に大きな危機が訪れています。ひとつは『松枯れ』と呼ばれるマツ材線虫病です。北海道と青森県を除いて、日本全国のアカマツ、クロマツ等に被害が及んでいる病気で、伊那市周辺もここ10年ほどの間に被害が見られるようになって

来ました。マツノマダラカミキリが運ぶマツノザイセンチュウという1mmほどの線虫が、カミキリの後食により幹に侵入すると、アカマツは通水障害を起こし、多くは枯れてしまうというものです。このため、中国・近畿地方のマツタケ産地は大きな被害を受けましたし、建築材としてのアカマツの近い将来の資源減少も危ぶまれています。

被害の先端地域では、被害木および切捨て間伐による幹や枝の放置はマツノマダラカミキリの繁殖を助長するので、これは極力避けなければなりません。すなわち、間伐をしたら直径3cm以上の枝部分まで、早急

に破砕、焼却、埋設、薫蒸など、何らかの処理をしなければならぬのです。この手間が大変なので、里山近くであつてもアカマツ林の手入れがなかなか進みません。

松枯れにより多くのアカマツが枯れてしまった山林を、そのままにしておくわけにはいかないで、枯れた材を片付てヒノキ林や広葉樹林としてよみがえらせる努力をしたとき、次に待っているのは増え続けるニホンジカです。苗を植えても、あるい



赤テープの保残木の生長を邪魔する木を切る



切り株で伐倒の反省会は欠かせない



足場が悪く受け口作りにちょっと苦労

は実生や萌芽は、大きくなるまで待たせても、間伐の時期を過ぎると、受け口作りが難しくなる。

しまつのです。昨年森林塾で植林した広葉樹も、雪解けの後、見に行ったら大方食べられていました。この松枯れとニホンジカの脅威で、伊周辺の標高800m程度までのアカマツ林は、今打つ手が無いような状態です。さて、間伐は島崎先生の年1回の講義でした。夕方からは暑気払いのバーベキューで一杯。先生も参加してくださいました。

通年コース第七・八回 7月18・19日(金・土)

### 間伐

参加者/牛山さん、金井さん、小池さん、立木さん、日戸さん、松山さん、井澤さん 講師・スタッフ/島崎先生、平林、早川



目的をはっきりさせたうえで山の手入れを

専門コース第2回開催報告

『集材方向を考え、山側に倒す』

KOA森林塾の専門コースはチエンソーによる伐倒に特化したカリキュラムで、一年すべて参加すると4回、8日間になります。できれば一人で山に行くと、独力で安全に木を倒せる技術を身につけてほしい、という2001年に新設されたコースです。

梅雨の最中で、2日間まるまる現場に出ることはできませんでしたが、傾斜地で斜面下の林道方向に集材するため、山側に倒す方法に挑戦してみました。

傾斜地の木は多かれ少なかれ谷側に重心があるものが多いので、そのまま下に倒す方向で、手取り早いように思うのですが、倒

れるときに勢いがつくため、梢や枝が折れたり、地面に刺さったりして、枝払いや、集材時にちよつと厄介です。また、勢いがついて倒れるときに、保残すべき木を傷める可能性も高く、かかり木になります。場合は解消にも手がかりがかりません。

一方、少し工夫して山側に倒せば、切った木や残すべき木も傷めにくいですし、かかり木になつた時にもそれほど手をかけずには済ませることが出来ます。特に込んでいる山林でかかり木になる可能性が大きい場合は、山側に倒すことを考えるべきでしょう。

使う道具はロープ、とび、クサビ、フェリンググレバーなどですが、大径木や、傾きの

大きなものはチルホールを使って、安全に確実に山側に引き倒してください。どんな道具を使つてどのよう



山側にロープで引く。雨で滑る



クサビの道を開ける突っ込み切り

7月4日(金) 5日(土) 参加者/水津さん、三好さん、スタッフ/早川

専門コース第2回開催

とあります。

オフション講座 報告 『楽しい椅子作り』



座面をかねで仕上げる

いよいよ組み立てにはいる

各部品はあらかじめ講師の『こつあ木工舎』中村先生や堀内さんが作ってくれてあるので、まずは部品の面取りです。プロが使つかんなをお借りして削つてみました。

表面もかねできれいに仕上げ、次は穴を開けて木ネジで組み立て作業です。今年は座面に穴を開けず、下側から斜めに木ネジ穴を開け、座面をとめました。

残念ながら制限時間オーバーで、塗装の工程までは行けませんでしたが、後はお家でレモンオイルや、柿渋などで仕上げてくださいます。料理に使うオリブオイルでも良いそうです。自宅に置く家具は、やっぱり自然系塗料がベター

です。 『オフション講座』木工 6月29日(木) 参加者/金井さん、上條さん、小池さん

スタッフ/講師/中村さん、堀内さん、早川

次回以降の予定

集材コース(夏) 7月31日~8月2日 (木~土)

KOA森林塾のエキスを集めた3日間です。森林調査(測樹)から分析、診断、そしてチエンソーを使った実際の間伐、さらには簡易ウインチを使つての集材を行います。かなり忙しい3日間になると思いますが、いろいろなものもしっかりお持ち帰りいただければと思います。8人の方が参加予定です。調査は箕輪町長岡のヒノキ林で、間伐は伊那市横山のカラマツ林を予定しています。8時20分 鳩吹研修所集合です。

8月22・23日(金・土) 間伐・集材 7月の間伐現場、伊那市富

合。 8月22・23日(金・土) 傾斜地での伐倒訓練の続きです。小道具を使って重心を移動し、山側に倒す練習をして見ましよう。 8時20分、鳩吹研修所に集合してください。

専門コース第3回開催 9月12・13日(金・土)

合。 8月22・23日(金・土) 傾斜地での伐倒訓練の続きです。小道具を使って重心を移動し、山側に倒す練習をして見ましよう。 8時20分、鳩吹研修所に集合してください。

リレー通信

『あなたも鉋砥ぎマイスター』

牛山 博夫



長い文章を書くなどという事は何十年ぶりでしょうか。いや2000字の文章などは初めてでしょう。とても荷が重く、冒頭に字数を稼ぐためにつまらない事を書く、などという姑息な手段を講じてみました。変な書き出しとなりましたがこれから本題に入ります。

鉋くらいとなつています。長い間、ひと時も腰から離れなかつた鉋の、砥ぎについて書いてみます。私は以前、刃物の販売店を開いていた事がありました。刃物を売れば、必ず砥ぎの依頼もあるはずだからと、砥ぎの技術も身に付けなければと思ひ研究をしました。講習を受けるでもなく、師匠に付くのもなく、一人で試行錯誤の日々でした。それ以前の砥ぎときたらひどいもので、鎌、包丁、鉋、どれを砥いても全然切れず、母親の砥いだ鎌のほうがあるかに切れました。しかし生業として代金を頂くにはそれなりの腕前にならなければなりません。そんな思いで日にちを重ね、なんとか納得できるようになりました。

部分とまだの部分の区別はどのようにしたら良いのか。『済』と書き込む？愛用の0.26mmのボールペンでも至難の業だよね。記入法がだめなら消去法でどうか。キサゲだつて消去法だよ。そうだ、それでいい。光明丹なんか使用せずに他の物で、墨、インク、ペンキ、その他いろいろ。マジックインキが良いね。速乾性だし塗膜も薄い。何色が良いかな。青、黒、茶、色々試したが赤が一番でした。変な問答の結果、赤色のマジックインキを砥ぐ面に塗り、砥石に当てる。砥いだ部分は赤マジックが消えるから、砥げているという事になります。しかし側面のマジックインキが消えたから、砥げているとは言えません。肝心なところは刃先です。刃先に目を凝らし良く見ると、髪の毛より細く赤い線が見えます。これが砥げている証拠です。百分の一ミリメートルくらいは見えます。刃先のマジックが見えなくなり、『カエリ』が出れば砥ぎは完了、となります。砥石は荒砥(800)中砥(1000)仕上げ砥(2000)を使用すると効率も良く、切れ味も良く仕上がります。刃こぼれが無かつたり、摩擦の程度が少なければ荒砥は省略できます。番手を上げながらマ

ジックを塗ってカエリが出るまでを繰り返して、仕上げ砥までたどり着けば砥ぎは終了となります。側面の砥ぎは、『蛤刃』になるように砥ぐ、という事が鉋などの強く打ちおろす刃物には必須となります。そうしないと、いと簡単に刃こぼれします。刃先を向こう側へ向けて砥ぐ場合、押したときに刃先が上がり、引いたときには峰が上がります。これを『シャクリ』と言います。包丁などを買ったときに付いてくる説明書には、シャクラないように平らに砥げと書いてありますが、平らに砥ぐという事は相当に難しく、慎重に砥いてもシャクリはおきています。これを逆手にとつて少しシャクリ気味に砥げば蛤刃になります。片刃の鉋にはもう一つ難問があります。裏側は平らで三分の二くらいは鋼で、硬度が相当あります。鋼といえども使用しているうちに刃先が磨耗してきます。それを平らに砥ぎ上げるとすると相対的に砥ぎを要することになります。砥いでいるうちに根気が続かなくなり、途中で投げ出すという事にもなります。そこで、刃先に1ミリから0.5ミリくらいマジックインキが残るくらいに砥ぎ上げたら峰を1ミリから2ミリくらい持ち上げて砥

ぎます。こうする事により蛤刃状になり、強度も増します。カエリができたなら砥ぎ上がりです。カエリを取るには刃先の角度をイメージして砥石に置き、刃先と平行に1〜2回引けば取れます。カエリが砥石にあたっていればザラツキ感が少しあります。あたつていなければザラツキ感はありません。これも試行錯誤です。そのうちに感覚がわかる様になると思っています。砥ぐという事はどういふことでしょうか。少しふれてみます。砥石は粒度がほぼ均一な粒子の塊です。粒度は800では25ミクロンくらい、1000では10ミクロンくらいかと思ひます。これもメーカーによりロットにより、2倍も3倍も、あるいは数倍のバラつきがあります。砥ぐという行為はこの粒子で刃物を削るという事です。工作機械の研削盤で削る場合は、バイトの刃先が削り、削つた筋が付いていきませんが、そのバイトの刃先が砥石の一粒という事です。よく見ると白っぽくなって無数の筋が見えますが、粒子により溝が無数に作られているのです。番手を上げる毎に溝が浅くなり、小さくなりますが、無くなることはありません。2000まで砥げば、

見た目も切れ味も良くなるから、そこで終了、と妥協しているという事かもしれません。出来るだけ早く、効率良く砥ぐという事を考えてみます。刃物を砥石に対して通常は60度の角度に置いて砥ぎますが、逆の60度にしたたり、直角にしたりに砥ぐと、筋を横断することになります。という事は筋の山の部分を削つてるといふ事になり、砥ぐときの負担が軽くなります。またこうする事により光の反射によって白っぽく見える様子が違ってきますから、砥いだ場所も良くわかる様になります。では、切れ味を確認してみましょう。コピー用紙でも新聞の折り込み広告でも良いですから、つまんで垂らしてください。つまんだすぐ横に砥ぎ上がった刃を入れます。刃物の重みだけで切れ下がれば完璧です。同じように、手元から引きながら先のほうまで引き切ります。刃こぼれがあったり、砥げていない所があると、引っかかります。引っかかりた所の修正砥ぎをして、垂らした紙を引き切つて、引っかかりが無くなればこれですべて完了となります。

砥いだらもうひと問答です。砥いでなぜ切れるようになるのか？切れるように砥げば切れるのだ!! 変な問答ですね。砥いだらもうひと問答です。砥いでなぜ切れるようになるのか？切れるように砥げば切れるのだ!! 変な問答ですね。砥いだらもうひと問答です。砥いでなぜ切れるようになるのか？切れるように砥げば切れるのだ!! 変な問答ですね。



りうまくいかないと思いますが、引き下げる方が良いと思います。その他、爪に刃先を置いたり、後頭部の髪の毛に刃先を置いて、引っかかって滑り落ちなければ砥げていきます。この方法が分かりやすいかも知れません。

マジックインキで砥石が汚れますが、砥ぎには影響しません。気になるようでしたら修正砥石を当てればきれいになります。

つまだ紙がスーと切れた時は思わずにんまりしますよ。そして手当たりしだい刃物を砥いでみたくありません。

この文章は断片的な事象の羅列となり、分かりづらいつと思いますが、ある程度理解してもらえたいと思います。これを参考に研鑽してください。

これでああなたは刃物砥ぎ名人です。



毎年刊行される『森林・林業白書』の巻頭には十数年來時の農林水産大臣のコメントが掲載されるが、後述するような低迷する森林の整備や林業活動に対する理解が乏しいように思われてならない。そしてコメントの締めくくりには「この白書により、国民の皆様が、わが国の森林・林業・木材産業の役割や重要性に対する理解を深めて頂くことを期待する」といった趣旨の挨拶が述べられている。しかし前回回の通信で述べたように、森林や林業関係者でさえ白書の通読者は希で、ましてや一般国民が白書に接する機会はほとんど無いように思われる。

一方記述の内容は年々広範多岐にわたるうえ、各章節の記述はそれぞれの分担執筆によるものと思われ、内容の重複も各所に見受けられ、白書の全体像を把握しにくい嫌いもある。因みに最新の平成 25 年版白書の大見出し(章・節)のみを抜粋しておく。

平成 24 年度 森林及び林業の動向	第 1 部 森林及び林業の動向	第 1 章 森林・林業の再生と国有林	1、森林・林業の再生に向けた取り組み(記述の細目 36 件)	2、森林・林業の再生に向けた国有林野の展開(45 件)	3、今後の課題(2 件)	第 2 章 東日本大震災からの復旧・復興	1、森林・林業・木材産業の被害と復旧状況(3 件)	2、復興に向けた森林・林業 木材産業の貢献(20 件)	3、原子力災害からの復興(18 件)	第 3 章 地球温暖化対策と森林	1、地球温暖化対策の現状(3 件)	2、「京都議定書」第 1 約束期間の目標達成に向けた森林関連分野の取組(12 件)	3、2013 年以降の地球温暖化対策の検討状況(13 件)	第 4 章 森林の整備・保全	1、森林の整備の推進(32 件)	2、森林の保全の確保(22 件)
--------------------	-----------------	--------------------	--------------------------------	-----------------------------	--------------	----------------------	---------------------------	-----------------------------	--------------------	------------------	-------------------	---	-------------------------------	----------------	------------------	------------------

3、国際的な取組の推進(13 件)	第 5 章 林業と山村	1、林業の動向(50 件)	2、山村の活性化(8 件)	第 6 章 林産物需給と木材産業	1、林産物需給の動向(32 件)	2、木材産業の動向(22 件)	3、木材利用の推進(33 件)	第 2 部 平成 24 年度森林及び林業施策	森林の有する多面的機能の発揮に関する施策	1 面的まとまりを持った森林経営の確立	2 多様で健全な森林への誘導	3 地球温暖化防止策及び適応策の推進	4 東日本大震災等の災害からの復旧、国土の保全等の推進	5 森林・林業の再生に向けた研究・技術の開発及び普及	6 森林を支える山村の振興	7 社会的コスト負担の理解の促進	8 国民参加の森林づくりと森林の多様な利用の推進	9 国際的な協調及び貢献
-------------------	-------------	---------------	---------------	------------------	------------------	-----------------	-----------------	------------------------	----------------------	---------------------	----------------	--------------------	-----------------------------	----------------------------	---------------	------------------	--------------------------	--------------

献	林業の持続的かつ健全な発展に関する施策	1 望ましい林業構造の確立	2 人材の育成・確保等	3 林業災害による損失の補填	林産物の供給及び利用の確保に関する施策	1 効率的な加工・流通体制の整備	2 木材利用の拡大	3 東日本大震災からの復興に向けた木材等の活用	4 消費者等の理解の醸成	5 林産物の輸入に関する措置	国有林野の管理及び経営に関する施策	1 公益的機能の維持増進を旨とした管理経営	2 森林・林業再生に向けた国有林の貢献	3 国民の森林としての管理経営	団体の再編整備に関する施策	平成 25 年度 森林及び林業施策	森林の有する多面的機能の発揮に関する施策	林業の持続的かつ健全な発展に関する施策	林産物の供給及び利用の確保に関する施策
---	---------------------	---------------	-------------	----------------	---------------------	------------------	-----------	-------------------------	--------------	----------------	-------------------	-----------------------	---------------------	-----------------	---------------	-------------------	----------------------	---------------------	---------------------

**おわりに**

関東甲信が梅雨明けして約一週間。各地で猛暑が続いています。伊那界限も 33 度超えも記録し、暑さに慣れない体には大変です。

梅雨明け少し前の、前回の伐の一日目夕方に暑氣払いが敢行されました。大量の肉や野菜が巨大鉄板に乗せられ、次々と消費されました。しかし、金井さんの頑張りがあったものの、焼きそばは手付かずで残され、ウインナーもずいぶん余っていました。

さて、森林塾も、7 月末には集中コース(夏)が開催され、通年コースも次回の 8 月がでり返しを迎えます。間伐、集材から林道設計といよいよ佳境に入ります。悠長に夏バテなんて、してられませんよ。

投稿大歓迎。ご意見ご質問は早川までお気軽にご連絡ください。

TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994  
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062(開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp